

南るもい 水稻技術情報

留萌農業改良普及センター南留萌支所

TEL : (0164) 42-8493 FAX : (0164) 42-4079

HP : <http://www.rumoi.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index2.htm>



～本田水管理・次年度に向けた苗床管理について～

【本田の水管理】～上手な水管理で生育向上！！～

- 活着後は、分けつ発生の適温である 25℃以上を確保出来るよう、好天の日は3～4cmの浅水管理を行いましょう（図1）。
- 最高気温が 14℃以下の日が続く場合や風の強い荒天時は、やや深水（5～7cm程度）にし、稲体を保護しまししょう（図1）。
- ほ場に高低差が生じ、水深の深い部分に移植された苗は生育が劣るため、苗が水没することがないように水位をこまめに調整しまししょう。
△ 苗が水没してしまうと浮き苗や枯死の原因となってしまいます！
- 日中は必ず止水にし、入水は日照が多いと予想される前日の夜間～早朝（午後8時～翌朝6時頃）に行いましょう。
- 畦畔の点検や補修をこまめに行い、漏水防止対策に努めまししょう。

図1 分けつ期の水管理

月		6月		
旬		上	中	下
生育期節		分けつ		
		始	期	最盛
水深測定板	20 cm	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 天気が良いときは3～4cm 低温時は5～7cm！ </div>		
	15 cm			
	10 cm			
	5 cm			
		低温時		
目 標	初期分けつ促進			ワキ防止
水 管 理	昼間：止水・浅水 夜間～早朝：入水			中干し

【苗床管理のポイント】～来年度の育苗に向けて準備しましょう！！～

- 育苗を終了した苗床は、地力増進と次年度の健苗育成に向けて、pH 矯正やえん麦等の緑肥すき込みにより物理性の改善を図りましょう。
 - △ 置床として長年使用してきた苗床では、リン酸が過剰に蓄積するなど土壌養分のバランスが崩れていることがあるので、土壌診断を行い改善を図りましょう！
- 床土は、緑肥を栽培し、通気性・透水性を高めて土壌改良を進め、降雪前に集積して保管しましょう。
 - ☺ 酸度 (pH) は保管前に pH4.5~5.0 に調整しておきましょう。

<土づくりの目標：保水力が高く排水の良いふかふかな土！>

◎えん麦のは種

- 時 期：6月上～中旬（移植後早めに！！）
- は種量：20kg/10a or 5kg/90坪 程度（全面にまきます）
- 覆 土：1～1.5cm程度
- すき込み
 - えん麦が出穂する前にすき込みます。（水稻防除が始まる前に！）
 - すき込みは深く行き、2～3回ロータリーをかけよく混和させましょう。
 - すき込み後は土壌診断を行い、pH調整等を行いましょう！

◎pH調整(参考)

- 目標 pH：pH4.5～5.0
 - ※pH5.0を超えると、ムレ苗や苗立枯病が出やすくなります！
- pHが適正ではない場合、以下の表を参考に酸度矯正を行いましょう。

◎ 硫黄粉の施用 (pHが高い場合)

土量	土性	下げるための量(g)		
		0.1	0.5	1.0
一坪当たり 作土10cm	砂壤土	18	90	180
	壤土	21	105	210
	埴壤土	24	120	240

◎ タンカルの施用 (pHが低い場合)

土量	土性	上げるための量(g)		
		0.1	0.5	1.0
一坪当たり 作土10cm	砂壤土	84	420	840
	壤土	112	560	1120
	埴壤土	139	695	1390

塩分も忘れずに！

作業中は水分をしっかりと補給し、熱中症に注意しましょう😊